

風の流れ

【短歌】

広報委員会 選

◆華生短歌会◆

孫からのマツサージチエアに身をまかせ疲れを癒やす老いのしあわせ

旧道は閉じ込められた時の底覗けば動くあの日あの時

坂道を下る両杖楽なれば杖つくりするアカザ育てる

おゝ寒い秋をぬかして冬きたる婆の体力ついてゆかれぬ

我未だ旅の途中弦哲也受けた情と苦節を唄う

昼夜猛暑夜は虫の音さわやかに昼間の疲れ癒してくれり

氷雨降る新改駅の思い出は番傘手にした祖母の出迎え

免許証更新近き返納か止めたらいかんと友念を押す

街中の騒音逃れて吾は現在香北の里の病院に有り

◆とさやまだファミリア◆

氷雨降る新改駅の思い出は番傘手にした祖母の出迎え

免許証更新近き返納か止めたらいかんと友念を押す

街中の騒音逃れて吾は現在香北の里の病院に有り

◆高知アララギ短歌会◆

いちよう葉の色づく季節哀愁も黄色の落葉地面色どる

長月半ば向かいの棚田黄金の波聞きて見たれば杉桧の森

おめでとう悔しさバネに初勝利あの日の景色輝く宝

北風に冷え桜の木頑張つて咲くのを抱きしめ赤子を包む

青き空柿は鈴なり柏手を打ちたくなりぬ嵩と暢の地

◆鶯の谷渡りの声響き澄む退院決まり安堵の家路

この地にて出会い四十余年夕餉にとオクラ持ちくれし人の目の涼し

新聞に良い言葉が書いてある足よりも手をひっぱれる人になれと

かの昔妙見山より持ち帰りし山百合一株庭にふえたり

子燕は大きな口を開け餌ねだる明日をも飲み込む命の勢い

一日を振り返っては今日も又感謝感謝と笑顔で眠る

新年を迎える気持ちは年経ても望みを持つて明るく元気に

頓頃の桜の御縁あればこそ届きし封書胸に抱きて

セール待ち目を付けていた服次に訪れたならもう売り切れて

まだ髪も結われぬ若き力士にもエールを贈る手を握り締め

新年を迎える気持ちは年経ても望みを持つて明るく元気に

踏んぱりつよろよろ歩む八十路にてこの山坂を如何に越ゆるや

新年を迎える気持ちは年経ても望みを持つて明るく元気に

◆華生短歌会◆

◆鶯の谷渡りの声響き澄む退院決まり安堵の家路

補聴器は不思議たちまち生き生きと柱時計が音たて始む

新聞の面白い記事音読す痴呆防止に役立つかもと

くらやみの中に外灯二基が建つ眠れぬ吾の窓の友達

積読を少し崩さむあれやこれ小口黄ばめる書を選びる

◆「涛光」グループ◆

戦ひの音に似てゐるやもしれぬ見つむる先に弾くる花火

補聴器は不思議たちまち生き生きと柱時計が音たて始む

新聞の面白い記事音読す痴呆防止に役立つかもと

くらやみの中に外灯二基が建つ眠れぬ吾の窓の友達

積読を少し崩さむあれやこれ小口黄ばめる書を選びる

◆華生短歌会◆

戦ひの音に似てゐるやもしれぬ見つむる先に弾くる花火

補聴器は不思議たちまち生き生きと柱時計が音たて始む

新聞の面白い記事音読す痴呆防止に役立つかもと

くらやみの中に外灯二基が建つ眠れぬ吾の窓の友達

積読を少し崩さむあれやこれ小口黄ばめる書を選びる

◆鶯の谷渡りの声響き澄む退院決まり安堵の家路

補聴器は不思議たちまち生き生きと柱時計が音たて始む

新聞の面白い記事音読す痴呆防止に役立つかもと

くらやみの中に外灯二基が建つ眠れぬ吾の窓の友達

積読を少し崩さむあれやこれ小口黄ばめる書を選びる

◆華生短歌会◆

戦ひの音に似てゐるやもしれぬ見つむる先に弾くる花火

補聴器は不思議たちまち生き生きと柱時計が音たて始む

新聞の面白い記事音読す痴呆防止に役立つかもと

くらやみの中に外灯二基が建つ眠れぬ吾の窓の友達

積読を少し崩さむあれやこれ小口黄ばめる書を選びる

◆鶯の谷渡りの声響き澄む退院決まり安堵の家路

補聴器は不思議たちまち生き生きと柱時計が音たて始む

新聞の面白い記事音読す痴